

お客様紹介

株式会社ニシムラ 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015、ISO 45001:2018 認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

株式会社ニシムラ様は、1954年京都府舞鶴市で創業、今年70周年です。関西を中心に西日本広域にわたり、JR線や私鉄各線の軌道工事及び土木工事を主に手掛けられています。

2022年にISO 9001・ISO 14001・ISO 45001の3規格を認証取得されました。定期審査では、深夜の保線業務での現場審査があり、今回の現場では、新規導入された八頭タイタンパー使用の施工作業を審査しました。タイタンパーは鉄道保線用大型機械の一種で、レール上を走行することで生じる線路の歪みなどの修正を行うためのものです。軌道工事では、線路内のレールや枕木、それらを支える道床などの交換、踏切の修繕・交換なども行うため、終列車から初列車までの列車が止まる夜間の限られた時間内での正確な施工と品質を求められる重要な作業です。同社では、作業の省人化と効率化を図るため、軌陸両用のバックホウやダンプトラックなどの重機を複数台導入し、人力施工の軽減に努められています。

私たちの生活に欠かせない鉄道インフラの維持管理のため、



深夜作業にあたられている社員の皆さん

社員の安全教育の徹底や、様々な資格のバックアップにも力を入れられ、安全・正確な列車運行確保のため、日々取り組まれています。本年5月には、同社の安全衛生への取



八頭タイタンパーでの作業風景

り組み・活動が評価され、京都府北部地域では初、建設業では京都府内初となる「安全衛生優良企業」の認定を受けられました。今後のニシムラ様のさらなる躍進が期待されます。

<https://k-nishimura.co.jp/>

連載
よみもの

審査員の心理

第40回（環境編）

「パフォーマンス評価(1)」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

パフォーマンス評価はPDCAのC(Check)に該当する活動で、マネジメントシステムに共通した監視・測定もありますが、それぞれの規格独特の視点での監視・測定も含まれています。ISO 14001独特の監視・測定としては“環境測定”があります。組織の環境負荷の状況に応じて必要な監視・測定は異なりますが、排ガス、排水、騒音・振動などを規制値内に管理するために環境測定が必要になることがあります。環境測定には、直接測定するもの、データを入手して管理するもの（例えば電力や燃料などの使用量は伝票などで把握しているでしょう）、測定を外部委託して報告を受けるものもあります。さらに、環境管理上重要な設備などの状態も監視・測定の対象となり得ます。数値を計測するだけでなく、点検などによる状態を監視することも含まれます。規格では、まず、監視・測定の対象を特定し、

監視、測定、分析や評価の方法やそれらの実施時期を決定することを求めています。環境管理の体制が確立されていれば、これらの監視・測定は既に実施されているはずですが、審査では、どのような監視・測定が該当するか、意識されていない監視・測定は無いのか、確認するようにしています。

規定された通りに監視・測定を実施することは当然ですが、その結果を判断することも重要です。法的に規制値が定まっている場合は当然ですが、自主的な管理でも管理値や管理基準を定めて管理されているでしょう。通常は、正常な状態で維持されていることを確認し、基準から外れた場合には、状況に応じたアクションがとられているはずですが。

審査にて、異常な状況に適切に対処されていたという記録が確認できると、監視・測定が有効に機能していると感じられます。しかし、時々、アクションが確認できないこともあります。例えば、浄化槽の検査や保守点検などを外部に委託している場合などで、委託先からの報告書に処置が必要である旨のコメントが記載されていることがあります。その報告書を、そのままファイルしただけの事例を見かけることがありました。測定は外部に委託しても、管理責任は組織にあることを理解いただけるように、お話しすることがあります。